

□1月5日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版

「わたしには確信がある」(詩編27:1～14)

今日の説教題に「私には確信がある」とつけました。それはどのような確信かと言うと、神が私たちと共にいて日々導いてくださる。その先に永遠の命、天国があるという確信です。しかしそのような、きれいごとに聞こえる良いことだけでなく、苦しくて「神さま！なぜ祈りを聞いて下さらないのですか」と叫ぶその経験を通して、神が私たちに大切な思いを与えられるのだという確信でもあります。神は私たちを愛し信頼して下さいますから、神の側が共にいてくださるだけではなく、私たちの方も神と共にいてほしいと願われます。それは当然ではないでしょうか。私たちの側から、神と共に歩みたいという大切な思いを起こさせるために、神はいろいろな経験を下さると私は確信するのです。

私たちが神と共に歩むためには、神に祈り、神の御言葉である聖書をよむこととともに、神・キリストの体である教会に集い、礼拝を守り、神が愛しておられる兄弟姉妹と共に祈り励まし合うことが不可欠です。それは簡単なことではありません。冒頭からお話しているように心が折れているとき、そして、わたしはこんなに頑張っているのに神は全く応えて下さらないと思う時には、「聖書なんか読むか！教会なんか行ってられるか！」という思いが湧きあがってしまいます。そして神と共に歩むことをやめてしまいがちなのが、弱いわたしたちです。

しかしながら思うのです。「神さま、私といつも一緒にいてください」とお願いしながら、一方で「でもわたしは疲れたので…神さまと一緒に歩もうとすることは、辞退させていただきたいです。」と願うのは、やはり違うのではないかと。神が良い時も悪い時もともにいてくださるから、私の側も、よいときも悪い時も神さまと共に歩むことから逃げないでいたい。そのような思いを新たにいたしましょう。(終)